

昭和学報

昭和女子大学
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂
154-0303 (三回一) 五二一八
編集発行人 山崎洋史

宇治の早蕨

文学研究科長 岸田 依子

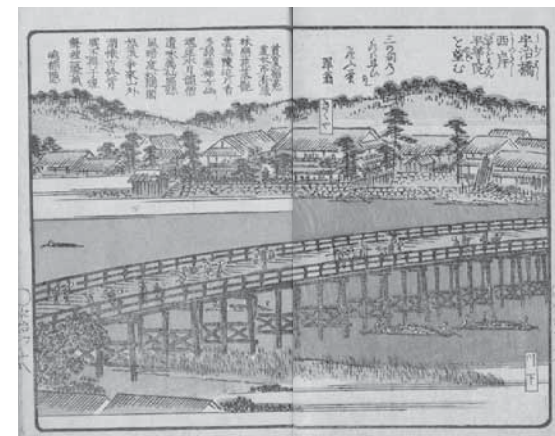
岩走る垂水の上の早蕨の
萌えたる春に
なりにけるかも
(志賀皇子)

冬の間凍てついていた滝水が、岩の上を勢いよく流れ落ちるそのほとりで、蕨の新芽が萌え出る早春の景を詠んだ歌である。水しぶきをあげながらたぎり落ちる滝と、春を迎えて芽ぶく早蕨。水流と清新な草木の生命の躍動感が感じられる歌である。春の早蕨といえ

ば、『源氏物語』宇治十帖の「早蕨」の巻が有名であるが、正岡子規が明治二八年に詠んだ「春水」と題する、「春の水宇治をめぐりて流れけり」「春の水蕨の中を流れけり」の句も、宇治から宇治十帖「早蕨」の巻を連想して詠んだものである。

宇治は古来、京都と奈良を結ぶ交通の要衝で往來の盛んな所であるが、宇治川にかかる宇治橋は日本最古の架橋とされ、宇治川とともに宇治の名所となっている。橋のたもとに現在でも残る茶屋の「通圓」は、平安時代末期ごろ、宇治橋の橋守であった通圓が、通行人に茶を供したのが始まりとされ、中世には茶屋坊主通圓と旅の僧が登場する「通圓」と題する狂言

宇治は、『源氏物語』宇治十帖のほか、『平家物語』では以仁王と源頼政率いる源氏勢が、流れの速い宇治の大河をはさんで平氏勢と対決する「橋合戦」(巻四)や、梶原景季、佐々木高綱が先



宇治橋 (『宇治川兩岸一覽』)

今月の昭和学報は

- 国際シンポジウム
「国際的視野のなかのハルハ河・ノンハン戦争」……………(2)
- ゆうやきCFC Inclusion Award 2014
「Shirane is friends」ポスターに参加……………(3)
- 学生OEC D関係理事会に参加……………(4)

も創られている。

宇治をめぐりいろいろ述べてきたが、宇治は筆者の生まれ故郷である。日本に「いんげん豆」を伝えたといわれる、隠元禪師が開いた黄檗宗大本山萬福寺が近くにあり、家

に遠方からの客が見え、白雲庵という普茶料理の店に案内し、宇治の平等院やその周辺を散策するというのが、ほぼ決まっていたコースとなっていた。子どもの頃はいんげん豆や普茶料理のイメージが交錯し、大人たちが口にする「マンブクジ」は「満腹寺」だと思ひ込んでいたものである。

京阪電鉄宇治線の「黄檗」駅から、「三室戸」を経て次の駅が「宇治」で、宇治には写生にもよく行った。宇治川や宇治橋、背景の山々や平等院など、四季折々の画材には事欠くことがなかった。平安の貴族たちは、三方を山に囲まれ、大河の流れる山水の風光をめで、宇治の地に別荘を設けたが、藤原道長が譲り受けた宇治院の別荘は、子の頼通の代に寺院となし、平等院と号して現在に至っている。平等院は、十円硬貨の意匠として日々目にしているが、平成六年に世界文化遺産に登録され、平成二四年より進められた鳳凰堂の平成修理が昨年完成し、一〇月に落成式が行われた。「極楽世界の儀を移す」「群類(すべての生きもの)を彼岸に導くがごとし」(扶桑略記)、「極楽いぶかしくば、宇治の御寺をうやまへ」(後拾遺往生伝・童歌と伝えられるように、金色の阿弥陀如来を中心に、雲に乗り音楽を奏でながら色鮮やかなCG復元による)五二体の菩薩たちが飛翔する平等院鳳凰堂は、まさに極楽浄土の世界をこの世に具現化したものであった。

グローバル人材育成フォーラム リサーチプレゼンテーション大会で第3位



写真右から、高口さん、尾葉石さん、梶さん、吉田さん

二月六日に明治大学で開催された「グローバル人材育成フォーラム」その中で行われたリサーチ・プレゼンテーション大会に、本学から英語コミュニケーション、学科三年の高口ゆかり、尾葉石幸世、梶真帆、吉田未来が参加した。「グローバル社会における開発と貧困問題」をテーマに、学生の視点から問題解決策を英語で提案するこの大会には、一八大学が参加。各大学内予選、審査委員によるピデオ選考を経て、八大学が当日審査員と観客の前でプレゼンテーションをした。本学は予選を勝ち抜き、貧困地域に住む母子を対象に、日本の小学生から大学生が支援を行うプロジェクトを発表した。結果として、三位入賞を果たした。

心理支援コミュニティサービスマンシップ成果発表会を開催



学園本部館大会議室にて、五回目となる心理支援コミュニティサービスマンシップ成果発表会は、提携先として、都・市・区教育委員会、国立青少年自然の家、オリピック記念青少年センターなど一六団体の参加、副学長を始めとする本学教職員総勢約百名の参加で、盛会の内に終了した。心理学を学ぶ学生が、様々な地域・組織に直接出向いて、心理的サポートを必要とする人々に対しボランティア活動を生かすきと行っている。年々、心理・教育支援現場からは、昭和女子大生に是非力を貸して欲しいとの好評価が高まっている。同時に、学生には活動を通じて、教室で学んだ臨床心理学・教育心理

学・社会心理学・認知心理学などの知識が、体験的学習により、自らの専門性を見出し行動する力へと変容していく良い機会となっている。アクティブラーニングやピアラーニングの代表的な手法の一つとしても、社会的自己効力感を高めるキャリア・アツプの側面から、心理支援コミュニティ・サービスマンシップがあるから本学を志望したと入学時述べる学生も少なくない。教室での学問と現場での体験は、キャリア・アツプの両輪として、ますます好調なスピードで加速しそうである。(心理 教授 山崎洋史)

国際シンポジウム 「国際的視野のなかのハルハ河・ノモンハン戦争」

平成二六年一〇月二二日、本学、公益財団法人守屋留学生交流協会、モンゴル・日本人材開発センター・スルドモンゴル国ハル・スルドモンゴル国ハルハ河・ノモンハン戦争」が本学八〇年館で開催された。



小原奈津子副学長

この遠隔会議も実施し、参加者の注目を集めた。総合ディスカッションでは、フロアやパネラーからさまざまな質問が提起された。最後に本学小原奈津子副学長が閉会の挨拶をした。本シンポジウムの成果は論文集として平成二七年に出版する予定である。

(国際 准教授 フスレ)



開会挨拶を述べる金子朝子副学長

戦争から七〇年余りがたち、とりわけ冷戦後の各国の研究者たちとの間で友好的な協力関係が実現されつつある今は、同戦争についての研究を一步進める重要な時期である。本シンポジウムは、戦場となった地域だけではなく、間接的に戦争とかわった諸国、諸民族、北東アジア地域をめぐる地政学的特質、開戦および停戦にいたるまでの外交交渉プロセスに焦点をあて、新たに発見された歴史記録、学界の最新の研究成果を総括し、広い視野から、特色ある議論を展開することを目的とした。参加者は日本、モンゴル、ロシア、イギリス、中国からの研究者七三名(本学会場で六七名、ウランバートル会場で六名)で、国内では東京大学、一橋大学、東北大学、早稲田大学、東京外国語大学、桐蔭横浜大学、桜美林大学、多摩美術大学の教員と学生研究、さらに、朝日新聞社、角川書店、ソニー、ジャパン・ラーニングなどからの参加も得られた。



ウランバートルとの遠隔会議

先生の研究室訪問

イーブンペース

福祉社会学科専任講師 荻野 太司先生



マラソン大会の荻野先生(左)

今回は福祉社会学科の荻野太司先生にインタビューを行った。

荻野先生は昭和女子大学に着任されて二年目と

いうことだが、以前は広島大学の研究員をなさっていた。昭和女子大学の第一印象についてお聞きしてみると、渋谷に近いこともあり、都会の大学だと感じたそう。

生は、生きにくい環境に子どもがいるからこそ、事件が起こっているのではないかとする法学者の考えに共感し、そこから法学への道がはじまったのだそう。暗記が多すぎた。逆になんか嫌いな点では嫌いな点で、今では法学が好きでしようがない」と笑顔で先生は語ってくれた。

学生時代に行っておけば良かったこと、海外へ行っておけばよかったことのお返事。荻野先生は、ニュージーランドに一年間留学した経験をお持ちだ。留学中は、それまで自分を取りまいていた言葉や食べ物などの馴れ親しんだ環境を離れ、様々な新しいことを体験したり、吸収したりしたそう。こうした経験をもっとたくさん重ねておけば良かったと、話してくださった。

同じペースで走り続けること。これは勉強にも通じること、一日三問解くと決めたら、毎日継続して三問解き続けることが結果につながると話してくださった。

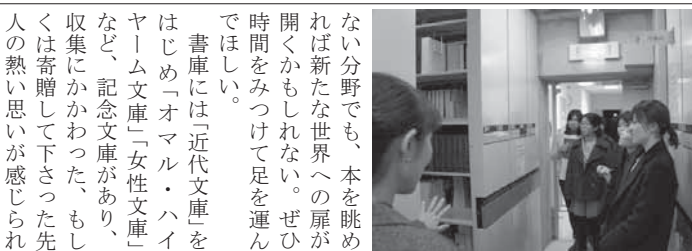
荻野先生の好きな言葉は、*"Pain is inevitable, suffering is optional."* 努力には苦痛を伴うことは必然であるが、その苦痛を感じながらも継続するか、そこで諦めるかは自分の意志次第という意味である。私たちはこの言葉を聞いて、これは勉強だけでなく人生においても大切にしていきたい言葉だと感じた。

(学報委員 富山裕里 沖野広香)

図書館に行こう!

一年間で皆さんはどのくらい本を読んだらう。本学図書館の一人当たり平均貸し出し冊数は一〇冊に満たない。この数について、どう考えるだろう。私たちが学報委員幹部は、活動の締めくくりとして図書館取材した。特に印象的だった地下書庫や図書館リニューアルについてお伝えする。

私たちが普段利用する開架室三・四階の他に地下書庫があることを知っている人は多いが、活用となるとどうだろう。本学には約五〇万冊の蔵書があり、開架室には約四分の一の一二万冊があ



る。つまり、蔵書の多くは地下書庫にあるのである。足音だけが響く静かな地下書庫には、天井まで届く本棚が見渡す限り続いている。これまで私は入庫手続きが煩雑そうだという理由で、地下書庫を利用したことにはなかった。今回取材で、その思いは一変した。手続きは、学生証を見せるだけと、意外なほど簡単なのである。書庫は分野ごとに分けられ、興味のある分野の蔵書をじっくり眺めることで、読みたい本書が必ず見つかることだろう。また、関心の

ない分野でも、本を眺めれば新たな世界への扉が開くかもしれない。ぜひ時間をみつけて足を運んでほしい。

書庫には「近代文庫をはじめ「オマル・ハイヤム文庫」「女性文庫」など、記念文庫があり、収集にかかわった、もしくは寄贈して下さった先人の熱い思いが感じられることだろう。さらに、温・湿度が保たれた「貴重書庫」もあり、どのような本があるのか興味深い。

続いて、図書館のリニューアルについて。改装のテーマは、「静」と「動」の空間に分けること。現在四階にある「閲覧室」は、プレゼンテーションの練習や、グループワークに利用できるスペースだ。防音扉で区切られた空間は、様々な学生活動の場となり、四階の端にあり、その存在を知らない学生もいる。そのスペースが三階に移り、より活用しやすくなる。詳細は未定だが、新学期には、ぜひ新しくなった図書館に足を運び、活用してほしい。

(学報委員 大原まどか)

choco-talk

"choco-talk"は、学報委員によるミニコラム。身近なことから社会現象まで、様々なテーマでお届けします



冬休み、私は父の赴任先であるインドを訪れた。短いインド滞在の中に1泊2日でデリーから南東820kmにあるバラナシを訪れた。バラナシはヒンドゥー教の一大聖地であり、三島由紀夫の『豊饒の海』や遠藤周作の『深い河』の舞台としても知られる。



デリーから空路で1時間ほどでバラナシに到着。空港から宿へ向かう途中に見た市内の光景に大きな衝撃を受けた。人、車、それにゴミを食べる荒らす牛・ブタ・犬が混在し、街中に活気が溢れている。これがまさにカオスというものなのか。市内やガン

ガー(ガンジス川)沿いの「ガート」を歩く時は、常に足元を見なければならぬ。地面には無数の牛の糞が落ちているからである。そして歩いていけば必ずと言っていいほど客引きに声をかけられる。土産物屋、ガンガー遊覧のボート、そしてゲストハウスの客引き……。それらの人々を常に断りながら歩く。歩いている時はもちろん、車に乗っている時でも、赤ん坊を抱いた母親や幼い子どもたちがお金、食べ物を恵んでくれと寄ってくる。

インドといえば、デリーを中心に経済的世界的發展を思い描いていた私にとって、この国の二面性を目の当たりにした驚きの連続の旅であった。(学報委員 廣沢明佳里)



「三茶」を楽しむ「プロジェクト」活動紹介

私が参加している「三茶」を盛り上げよう茶さんちやを楽しもう！プロジェクト」について、その活動をお伝えする。本プロジェクトは、本学がある三軒茶屋の魅力を積極的にPRして、その活動を紹介します。

このプロジェクトは、文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」採択プログラムであり、昭和デザインオフィスのプロジェクトの一つとして、意欲ある学生が各学科から集まり、学科を越えた仲間意識で参加してい

る。さらに本学だけでなく、駒澤大学や青山学院大学の有志学生も参加しており、大きく企画班とMAP班に分かれて現在活動している。平成二六年三月に世田谷区の施設である「ふれあい広場」のオープンイベント、九月に岡山県の特産品が集まる「第一弾ぐるり瀬戸内コラボフェスタ」岡山お取り寄せフェア」に参加した。

企画班は、様々なイベントの企画やその運営を行っている。例えば「ふれあい広場」のオープニングイベントをより盛り上げる企画として、三茶のゆるキャラを決めるコンテストを企画した。イ

ベント当日に発表した新キャラクター「三茶のさんちゃん」は大人から子どもまで、来場者に大人気だった。「ぐるり瀬戸内コラボフェスタ」では、出店したお店の商品をメンバーが試食する様子を録画し会場でお客さまに見ていただくイベントを支えた。MAP班は、三軒茶屋にあるお店を女子大生目線で紹介する三茶MAPの作成をしている。私はMAP班に所属しているが、掲載するお店の選定をはじめ、どのような情報を盛り込むべきかや、お店との取材調整に苦労した。しかし、取材を通

じてそれまで知らなかった新たな三軒茶屋の魅力を発見する楽しさもあった。MAPはイベントや学科の新人に配布したほか、協力店に置かせていただく、好評であった。現在、第二弾MAPも作成中である。このプロジェクトの魅力は、活動を通して他学科や他大学の学生の方や、地域の方々と関わり、今ができることである。今後も大学での学びを活かし、三軒茶屋活性化に貢献できる企画を考案していきたいと考えている。活動に興味のある学生の方は、ぜひ参加してみてください。(学報委員 廣瀬絵梨)



フィナーレの様子



運営スタッフと学生ボランティア

「Everyone is Original」

二月四日、本学八〇年館コスモスホールで開催された。コンテストは、ファッション、パフォーマンス、アートの三部門に分かれ、ソーラ

まで度々耳にし、口にした「出会いを大切に」という言葉の重みを、実は理解しなかつた。反省するほど素晴らしい「出会い」に恵まれた。イベント終了後、参加者から「人生で一番楽しかった」「幸せ」という言葉が沢山頂いたので、そんな素敵な時間を共有でき、心が嬉しく思う。この時間が終わると思うと胸が一杯になったが、今後も出会いを大切に、他のイベントにも積極的に参加したいと思う。そして来年このイベントで、参加者との再会を果たしたい。(福祉 吉さくら)

学報委員企画 絵本を楽しもう!

最近絵本を手にしたこととはあるだろうか。毎年数多くの絵本が出版されているが、子どもだけではなく私達も楽しめるものが多くある。このコーナーでは、素敵な絵本の



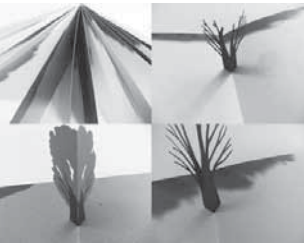
『スミミー ちいさなかしこいさかなのはなし』 しろ=レオニ (著)、谷川俊太郎 (訳)、好学社



『はらべこあおむし』エリック=カール (著) もり ひさし (訳)、偕成社



『雲ひとつ』 作 / 駒形克己 刊 / ONE STROKE



『Little tree』 作 / 駒形克己 刊 / ONE STROKE

中から四点を紹介したい。まず、『スミミー』と『はらべこあおむし』。この作品を小さい頃に読んだことがある人は多いだろう。しかし、オリジナル版を手にしたことあるだろうか。この二冊に限らず、様々な国の言語に翻訳され出版されている絵本がある。文章が

簡潔な絵本は、言語の違いをより深く味わうことができる。カラフルで楽しいイラストでイメージが膨らむため、新しい言語に挑戦する際、ぜひ活用してほしい。また、大人になつて読み返すことで新たな発見もあるのではないだろうか。

『雲ひとつ』。一枚一枚の質感や色が僅かに異なる紙に、形の異なる雲が切り抜きで表現されており、絵は一つもない。添えられた簡略な言葉から想像力が刺激される一冊である。『Little tree』は、季節の移り変わりと共に変化する一本の木の姿が楽

しめる。ページを開くと木がボツンと立ち上がり、光の具合でその影が変化する。ゆっくりと流れる時間を楽しみたい時にぴったりな作品である。これを機に、つとておきの一冊に巡り合つてほしい。(学報委員 阿部里徳・代田裕子・名塩彩音・今村うらら)

「TABATAプロトコル」を開催

12/5

輝け☆健康「美」プロジェクトスポートスイベント企画では、新体育館アリーナにて、「TABATAプロトコル」というトレーニングを百名を超える参加者と共にを行った。



田畑先生を囲んで



「TABATAプロトコル」とは、高強度での四分間のトレーニングによって持久力や筋力を効果的に鍛えることができるプログラムである。実際、参加者が行ったところ、初めから辛さのあまり悲鳴が聞こえ、途中で動けなくなつた学生もいたほど。厳しい四分間であった。練習を重ねてきた私たちは、四分間を耐え抜くことができた。「TABATAプロトコル」を繰り返し練習することで、持久力がついたことを実感した。このようなスポーツイベントを今後も定期的に開催し、本学の学生を強く、健康的な美ボディに変身させたいと思う。(健康 西本美玲)

学生OECDD閣僚理事会に参加

私は昨年一月一五・一六日に東京大学にて開催された学生OECDD閣僚理事会に参加した。経済協力開発機構(OECD)は、経済や貿易、途上国支援を目的に活動する国際機関で、現在は三カ国が加盟している。



たくさんの留学生・日本人学生が参加し、意見を交換した。



右ガランさん

日本のOECDD加盟五〇周年を記念し、「OECD Student Ambassador 東京大学チーム」は、女性管理職の増加、若者の就業率の向上というテーマで学生版のOECDD閣僚理事会を開催した。私はこの理事会に参加したことで、坂東眞理子学長がおっしゃっていた「国際環境においては、英語の上手さよりも、英語で他人とディベートできることが大切」という言葉を実感した。そして、もともと自分の知識を増やし、日本語や英語で様々なことについて自分の意見を述べられるようになりたいと考えている。(ビジネス グエン・カイン・リン)

日文 留学カフェ ランチ交流会を開催

日本語日本文学科では平成二六年一月から留学経験者と希望者が情報交換する場として、「留学カフェ」を開催している。第三回は趣向を変えて、日本語を学ぶ外国人



留学生と日本文生の交流を目的にカンボジアや台湾、中国、カザフスタンから来た留学生とランチ交流会が開かれた。日本文生が留学についての質問をしたり、用意された温かいお茶を留学生に勧める場面なども見受けられた。中国からの留学生に「日本語を勉強する時の難しさはどんなことですか?」と聞いてみると、「中国語と日本語で使う漢字の読み方の微妙な違いが困る」、「日本と本場の中華料理の違いは?」



「餃子は本場と同じだけど、麻婆豆腐はあまり辛くはない、甘い」と日本と中国のギャップについて話してくれた。留学生の日本語学習を後押しする意味で日本語で気軽に楽しくコミュニケーションをとれたこともあり、短い充実した時間を過ごすことができた。(日文 高柳蒼七)

福祉 渡辺ゼミ 立山町インターカレッジコンペティション2014で優秀賞

平成二六年一月三〇日、立山コンペは、日、一二月一日の二日間、富山県立山町で「立山町インターカレッジコンペティション2014」が開催される。立山町の地域活性化について考え、新たな事業を提案するものである。



左から、小堀綾華さん、山田明美さん、磯田悠里花さん、審判委員長らしい。

渡辺ゼミでは、立山信仰の本来の姿を見つめ直し、立山・芦峯寺の再興のために「仲語」として立山を案内している四代目平蔵こと佐伯知彦さんに協力していた。四代目平蔵と行く立山・芦峯寺の旅を提案した。今年是全国九大から一二チームが参加し、経済や観光、

学生相談室主催 アロマで手作りバスソルト

二月十七日(水)、Global Loungeで、「女子大生のための自分磨きプログラム」を開催した。アロマセラピーの基礎知識を学んだ後、好きなアロマオイルを選び、バスソルト作りを体験。香りや効能を確認し、好きなブレンドを楽しんだ。また、ストレッチを行いリラクゼーションのコツも紹介した。(学生相談室)

たとえばこんなブレンドはいかが?
 スイートオレンジ+ラベンダー
 心地よい眠り
 ラベンダー+ティートリー
 風邪予防&消臭
 ゼラニウム+ベルガモット
 気分が前向きに

天然塩大さじ2杯に、精油5滴程度を目安に加えてみて。精油を使う際は、注意が必要です! 取り扱いには気をつけましょう。

行事予定

- 2月 1日(日) 図書館特別開館 (9:00~ 16:00)
- 2月 4日(水) B日程試験(入試で使用する建物への入館不可)、一日休講 図書館休館
- 2月 5日(木) 図書館長期貸出開始
- 2月 9日(月) 後期授業終了
- 2月10日(火) 特別補講日2
- 2月12日(木) 一斉追試験、学年末研修期間開始 (~3/10)
- 2月13日(金) 大学院2月期入学試験(生活機構学専攻(博士後期課程)のみ) 教職課程履修ガイダンス(総合教育センター主催・午前中) 年度末学長講話(13:30 日/英/歴/ビ/心/福 15:00 国/現/初/景/健/管) 第3回就職ガイダンス(16:30)
- 2月14日(土) 大学院2月期入学試験
- 2月17日(火) 図書館選書ツアー
- 2月20日(金) 外国人留学生2月期一般試験
- 2月21日(土) 大学院2月期入学試験合格発表、AO・推薦入試スクーリング設定日
- 2月24日(火) 学内合同企業説明会(平成27年3月卒業予定者対象)(12:30)